

都中社研 会報

東京都中学校社会科教育研究会
 眞久也行 重雅秀 眞
 原田橋原 石村椎藤 柴
 竹石村椎藤 柴
 竹石村椎藤 柴
 竹石村椎藤 柴
 竹石村椎藤 柴

会長あいさつ

東京都中学校社会科教育研究会 会長 竹原 眞



今年度の総会にて、本研究会の会長に選出された竹原眞氏は、承りました。また、私自身としては、歴史専門委員や研究部員として公開授業、研究発表、基調提案などの研究活動や事務局として、総会、地域巡検、夏季研修会、三分野合同研究発表会などの運営を行ってきました。中でも、二〇〇〇年（平成十二）全中社東京大会での公開授業、二〇〇九（平成二十一）の示範授業を担当したことは、社会科の教員としての研鑽を積む又とない場となりました。これまで、社会科の教員としての成長の機会を与え、御指導くださった本研究会の諸先輩方には、感謝の念に堪えません。さて、本年度、東京都中学校社会科教育研究会は、これまで通り研究、実践、育成の三点を柱として二〇二一年（平成三十三）全中社東京大会に向け、研究主題を

「国際社会を生き抜くこれからの生徒を育てる社会科学習の在り方」とし、活動を進めていきます。本研究会では、平成十二年全中社東京大会の研究より、「社会との関わり」「公民的資質」といった社会参画の意識や態度の育成を主題とした研究を継続しています。このような継続的で一貫した研究活動も他には見られない本研究会の特色といえます。さらに、研究部会には、国立教育政策研究所初等中等教育研究部長の大杉昭英先生をお招きし、御指導を受けながら理論研究を継続しています。現在、学習指導要領の改訂が進められています。常に新しい学習指導要領の改訂の趣旨に基づいた研究を行っていることもまた本研究会の特色となっています。そして、本研究会の主体ともいえる地理、歴史、公民の各専門員会が分野の特性を踏まえ、研究主題を多面的、多角的に捉えて、それぞれに研究テーマを設定し、実践研究を行っています。その成果が、学習指導要領解説に反映されたり、研究論文や教材に活用されたりして、学校現場に還元されています。今年度の研究の成果につきましては、二月二十四日東京都教職員研修センターにて、三分野合同研究発表会を開催いたしますので、会員の皆様には、是非御参加くださるようお願いいたします。

最後にあります。都中社研役員、各地区幹事の皆様の一層の御協力と相談役、関東ブロック中社研、全中社研の皆様の変わらぬ御支援、御指導をお願いいたします。さいとさせていただきます。

総会の講演について

都中社研副会長 井尻 郁夫

(福生市立福生第一中学校校長)

五月十六日(月)「平成二十八年度東京都中学校社会科教育研究会総会」の議事終了後、文部科学省 初等中等教育局視学官 澤井陽介先生を講師にお迎えして御講演をいただいた。新しい学習指導要領(平成三十三年度全面実施)の姿が、「論点整理」(平成二十七年八月二十六日 教育課程企画特別部会)以降徐々に明らかになる中、「育成すべき資質・能力」を御担当されている澤井先生の御講演「社会科改善の方向性」小・中連携を見据えては、今後研究を進めていく上で大変貴重な機会となった。

はじめに「社会に開かれた教育課程」について、「学んだことが社会につながる、学んだことを通して社会で使える力が身に付く」「目指すところを社会と共有し、社会に分かりやすく説明できる」ことが重要で、社会科はそのシンボリックな教科という話があった。また、「アクティブ・ラーニング」については、「授業づくりの基本的な考え方」と捉え、学習過程を見直し、工夫改善していくことが重要であるとの指摘があった。その中で、「主体的・対話的で深い学び」については、「問題解決の過程で『主体的』『対話的』であることにより『深い学び』が実現する」という構造になっている。「主体的」では「見通しと振り返り」、「対話的」では「対話を通して

協働して解決すること」、「深い学び」では「問い(課題)と答え(解決)をつなぐこと」の重要性やそれぞれの指導のポイント等を子供の実態や授業(指導)の現状を踏まえて、具体的に御説明いただいた。

社会科改善の方向性については、「教科目標」や「見方・考え方」などについて、各学校段階を踏まえてこれまで以上に整理されること、社会的現象を時間的、空間的に捉えるなど社会科らしく学ばせるプロセスを強く意識することの重要性など貴重な示唆いただいた。

御講演の中で、「十八歳で選挙権をもち、社会参画を果たす。十八歳までのカリキュラムという観点から、社会科は小・中・高等学校で分断されてはならない。小学校で学んだことを中学校に生かし、中学校で育ったものを高等学校で花咲かせるということが一層重要となる」というお話が印象的であった。これまで以上に各学校段階のつながりを意識していくことで、社会科が「国家及び社会の形成者」を育成する上で重要であり、核となる教科であることを改めて認識させていただいた。各分野の研究の充実をはじめ、分野間をつなぐことや中学校社会科としてのまとまり、さらには小学校、高等学校との接続・連携を意図した研究を推進する研究会でありたい。

地域巡検に参加して

齋藤 行弘

(江東区立第二砂町中学校)

時は八月二日未の刻。所は下総国東葛飾郡東大島。夏休みにもかかわらず、総勢四十弱の方々が集まる。目指すは中川船番所資料館。ここは荒川スーパードーム防の縁となっていて、○メートル地帯の江東区で左手に大きな崖を臨みながら前に進んで行く。前方に瀟洒な建物が。船番所資料館だ。

平成七年の土壌処理作業の際、多数の瓦片が出土したため、資料館として生まれ変わった。

エスカレーターで三階に上るとそこは江戸時代の中川と小名木川の交差点。船番所の前で中肉中背の男が立っている。久染館長だ。軽妙な語り口で私たちを三百年前の物流の世界に引き込んでくれる。二階展示室は江東区の郷土歴史・文化資料が上品に並んでいてまるで美術館のようだ。

最後に行った展望室から中川と小名木川を見渡すと、あたかも和船が今にも流れてきそうな気持ちに襲われる。地域の人々を取り込む館長の苦勞話がまた一興。

資料館を出て「塩の道」に出る。小名木川というのは徳川家康が千葉行徳の上質な塩を江戸城に運び入れるために開削した運河。江東区はその川の兩岸を遊歩道として整備し、「塩の道」と名付けた。ほどよく進むとその小名木川にか

かる番所橋の上へ。そこからは隅田川へ一文字に続く小名木川の名が見渡せる。

再び地下鉄を乗り換え清澄白河駅へ。松平定信(旧白河藩主)とその妻が今も眠る霊巖寺へ。二人のお墓が仲良さそうにひっそりとたたずんでいる。定信公の人柄が偲ばれる。江戸六地蔵の一つ、像高二・七五mもある深川地蔵等もあり、見所は満載だ。

その脇にあるのが深川江戸資料館。ここは江戸時代後期の深川佐賀町の街並みが復元されている。時の流れに合わせて照明も変化していく。太陽光が降り注ぐ日中、日が傾く昼下がり、空が茜色に染まる夕暮れ。時を刻む鐘が鳴る。日がとっぷり暮れると空には星が煌めく。船宿前の川面に星が揺れている。この資料館は長屋に上がり込んで、畳に座ったり寝そべることもできる。足踏み式の脱穀機を実際に踏んだり、掛けてある蓑を着てみたりできる体験型の資料館だ。それに加え、この資料館の魅力は常駐するボランティアスタッフ。当時の人々の生活を街並みを歩きながら、または家の上がり込んで詳しく解説してくれる。

江戸時代の町人の息づかいが聞こえてくるようだ。三百年のタイム



スリッパを体験したあとは門前仲町で江戸前の魚介類に舌鼓。現世の煩わしさを忘れさせてくれた夏のひとときであった。

夏季セミナーに参加して

種藤 博

(大田区立南六郷中学校)

私は、都中社の夏季セミナーに度々参加させていただいています。近年の夏季セミナーは、若手の先生が増えてきたので、講師の先生をお招きして基本的な授業づくりを講義していただき、時には演習を交えています。

今年度は、武蔵村山市教育センターの有吉保和先生をお招きして、「社会参画のための資質・能力を育てる指導法の工夫―グループによる学習」に焦点を当ててというテーマで、ご講演をいただきました。受講者による演習を行いました。有吉先生は、公民的分野がご専門で、都中社では数多くのアドバイザーをいただいています。

有吉先生はまず、グループ学習を取り入れた実践事例を紹介し、それについての疑問や参考になる点、問題点を受講者同士で出し合いました。

次に、受講者へ分かりやすいように、①公民的分野における学習指導要領の構造、②研究動向、③次期学習指導要領に向けての動きの三点を解説していただきました。

特に、①では社会科の目標について具体的なお話でした。先生は、昭和二十二年度学習指導要領社会科学編I「試案」に載っている「社会生活を理解させ」「その進展に力を致す態度や能力を育成する」を例にとり、前者は「社会認識」、後者を「社会参画」と考え、これら両者を合わせて「公民的資質の基礎を養う」ことになる。そして、このことは、現行学習指導要領でも同じことであることを話していただきました。

また③では、次期学習指導要領の目玉である「見方・考え方」についての基礎となる「多面的・多角的思考から判断へ」の構造を分かりやすく教えていただきました。そして、グループ学習についての見識を深めるために、アクティブ・ラーニングの考え方を図示しながら解説していただきました。

先生の講義を受けて、グループ学習の意見交換を改めて行いました。最後に、先生よりグループ学習に対する新たな視点をお話していただきました。私は、グループ学習というと、生徒がお客さんにならないように、一人一人に役割を与えて活動させる「ジグソー学習」を実践してきました。しかし、有吉先生からはどんな学校でもできる「グループ学習」として「ワールドカフェ」を提案していただきました。自由に意見が出せる雰囲気が良いそうです。

私は、「グループ学習」を実践してきましたが、有吉先生のお話を聞き、新たな視点を学ぶことができました。感謝しています。

| | | |
|----------------|--------------|-------------|
| 平成二十八年度 都中社研役員 | 会長 | 竹原 眞・江東深川第四 |
| 副会長 | 伊藤聡保・世田谷梅丘 | 田田清恵・大田石川台 |
| | 宮崎宏明・中央 | 井尻郁夫・福生福生第一 |
| | 高山知機・小平小平第五 | 中山 徹・練馬豊玉第二 |
| 会計監査 | 佐藤政明・新宿西新宿 | 伊藤聡保・世田谷梅丘 |
| 研究部長 | 池下 誠・練馬大泉西 | 入子彰子・文京 東山 |
| 副部長 | 三枝利多・目黒 東山 | 藤田 淳・港 高松 |
| 研究部員 | 松本 賢・昭島 拜島 | 松井敏孝・北 王子桜 |
| | 鈴木拓磨・墨田 両国 | 千葉一品・中野 第七 |
| | 中村 豊・荻川小松川第二 | 長井利光・江東大島西 |
| | 種藤 博・大田南六郷 | 田中繁広・文京 第一 |
| 三分野専門委員長 | 中野英水・板橋赤塚第二 | 高田孝雄・足立竹の塚 |
| 地理 | 藤田琢治・板橋板橋第二 | 石田重久・青梅 第七 |
| 歴史 | 村田雅也・足立第十一 | 椎橋秀行・文京 入谷 |
| 公民 | 細谷晋一・足立 第三 | 藤原 巖・東久留米東 |
| 編集部長 | 関 眞規子・文京 第六 | 千葉一品・中野 第七 |
| 副部長 | 高橋拓史・府中府中第九 | 薬師真澄・東久留米東 |
| 編集部員 | 水井雅史・荒川 第九 | 種藤 博・大田南六郷 |
| | 鈴木拓磨・墨田 両国 | 河合 仁・練馬 中村 |
| 事務局長 | 蓑田和明・練馬 八坂 | 長井利光・江東大島西 |
| 副局長 | 丹 暁子・江東第三砂町 | 福崎裕崇・荒川 第四 |
| 事務局員 | 齋藤隼人・品川 大崎 | 石藤博志・八王子 第二 |
| | 齊藤和宏・板橋志村第二 | 小林 誠・北 明桜 |
| 相談役 | 高岡麻美・府中 第九 | |